

私の目指す授業

観点を基に動きを比較することで、動きに着目した運動の行い方に気付き、体を動かす心地よさを味わう授業

学習指導要領体育編の体づくり運動の多様な動きをつくる運動遊びでは、体づくりのための基本的な動きができること、**運動の行い方の工夫**を通して、体を動かす心地よさを味わうことが求められています。

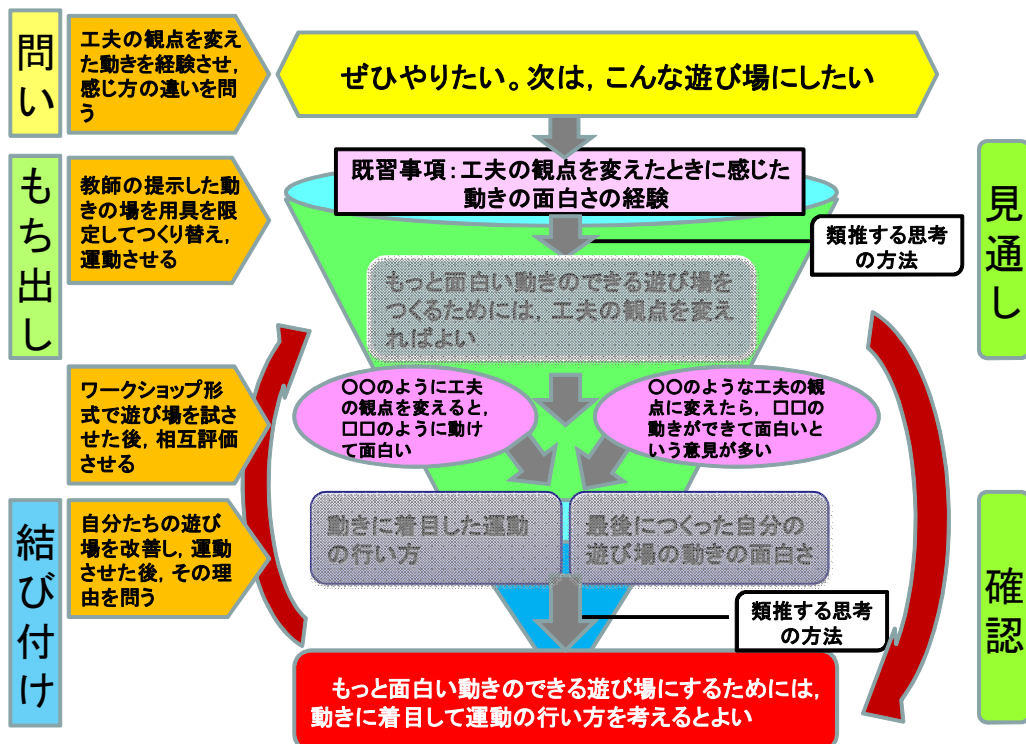


これまでの指導を振り返ると、文部科学省からの運動の例示を基に、教師が子どもに身に付けさせたい動きの場を設定し、一つ一つの動きを身に付けさせてきました。その後、それらを基に、子どもにさらに楽しくなるような場を工夫させてきました。この時、教師は「子どもは提示した場を合体させたり、用具を付け加えたりして動きを変えるだろう」と考えていたのではないのでしょうか。しかし、子どもに運動の行い方を工夫させると、すぐに「別の大きさのボールを使おう」「遊び場に別の用具を使って難しくしよう」などと考え、用具を変えて場を工夫することばかりに着目しがちでした。そのため、**動きは変えずに身に付けた動きを合体させたり、用具を取り入れたことで身に付けた動きと無関係な動きに変えたいする姿**が見られました。これでは、運動の行い方を工夫しているとは言えません。そうではなく、まずは「この遊び場なら、この動き方がよいのではないかと動きの工夫に目を向けさせた後に、場(用具やルール)の工夫へと思考させていくことが、運動の行い方を工夫するときには必要です。

そこで、私は、従来通り「動きを確認しながら運動する時間」として、一つ一つの基本的な動きを身に付けさせます。次に、**動きに着目して運動の行い方を工夫させるために、動きの工夫の観点(姿勢や方向、速さ、リズムなど)を提示し、動きの工夫の観点を変えて運動させる**ことで動きの面白さに気付かせていきます。このように気付かせるからこそ、その後の「動きを工夫しながら運動する時間」に運動の行い方を工夫させると、子どもは動きに着目して運動するのです。

このようにして、私は、**動きに着目した運動の行い方に気付き、体を動かす心地よさを味わう子ども**を目指します。

観点を基に動きを比較することで、動きに着目した運動の行い方に気付く授業の構造図



ポイント①. 「動きを確認しながら運動する時間」こそが大切！



低学年の子どもは、基本的な動きを意図的に身に付けさせることが必要です。低学年での運動経験が、中・高学年で非常に重要になります。

そこで、私は、本單元において、工夫の観点（表1）を示し、投げる動きの【方向】を変えた「上手投げと下手投げ」、【持ち方】を変えた「片手投げと両手投げ」、【強さ】を変えた「フワッと投げとビュンビュン投げ」を取り上げ、この6つの組み合わせにより多様な投げ方や転がし方を身に付けさせます。

その後、**工夫の観点を基にして、動きを比較させる場を用意し、そこで運動させます。**本單元で言えば、遊び場Aを提示し、加えて、工夫の観点を変えた遊び場Bを用意します。そして、**感じ方の違いを子どもに問うことで、動きの違いに気付かせていきます。**

この時間をしっかりと行うことが、今後の運動の行い方を工夫させるためには、最も重要です！ここで、動きに着目させるからこそ、動きに着目した運動の行い方を工夫するようになるのです。

表1 工夫の観点

- ・上下、左右、前後【方向】・片手、両手【持ち方】・強く、弱く【強さ】
- ・遠く、近く【距離】・広く、狭く【広がり】・高く、低く【高さ】・重い、軽い【重さ】
- ・立つ、しゃがむ、寝ころぶ【姿勢】・一人で、ペアで、グループで【相手】

ポイント②. 「動きの写真を掲示し、用具を限定する」からこそ、既習の運動経験を想起し、自分の運動の行い方の工夫に生かせる！



用具よりも動きに着目させるために、既習の動きの写真やその動きを表す擬態語などを体育館に掲示します。さらに、教師が意図的に用意した用具の中から自分たちが使用する用具を選ばせます。

子どもは、工夫の観点を変えて動く面白いと気付いているため、工夫の観点を変えたときに感じた動きの面白さの経験（既習の運動経験）を想起し、**「もっと面白い動きのできる遊び場をつくるためには、工夫の観点を換えればよい」と**考えます。

ポイント③. 「相互評価を基にして、遊び場を改善させる」からこそ、動きに着目した運動の行い方のよさに気づき、体を動かす心地よさを味わう！



自分（自分たち）が考えた運動の行い方が工夫できたかどうかを確認させるために、ワークショップ形式で互いの遊び場を試させ、相互評価させます。子どもは、他グループで経験した工夫と動きの面白さを自分が考えた遊び場での工夫や動きの面白さと比較したり、相互評価を参考にしたりします。そして、それらを基にして、さらに面白くなるための運動の行い方を考えます。

子どもは、「〇〇(工夫の観点)を変えると、やっぱり動きの面白さが味わえるぞ」と実感し、体を動かす心地よさを味わいます。